



大阪市立大学理学部附属植物園
園長 飯野 盛利氏

—交野市— 里山を考える。 木は再生可能なエネルギー

昨年、第1回「里山を考える研究会」が、星の里いわふねで開催された。木質ペレットは、二酸化炭素排出量が少ない再生可能な自然エネルギーとして、ヨーロッパを中心に広がっている。二昨春秋、私市の大阪市大附属植物園の温室に薪ストーブが導入されたのは弊紙「植物園の片隅から」でご承知の通り。化石燃料を、ほぼ輸入に依存している日本の

エネルギー事情と有限燃料であるという現実。大気中のCO₂濃度を上昇させて地球温暖化を加速させる石油に頼るよりも、専用ストーブやボイラーで暖房用燃料として使用できる木質ペレットを有効活用することとは地球環境にとつて大きなヒントとなる。植物園の灯油より安価な自然エネルギー導入はタイムリーでもある。自然豊かな交野の「里山とどう関わるか」。研究会では、植物園、行政、地域の里山保全に関わる団体が一堂に会し現状報告や課題が発表され、研究者の専門的な意見も交えた活発な討論が行われた。

「小さな薪」の可能性を見直す時期が来ている。

生態系を守るために！

市民・学生パワーで外来魚根絶

—寝屋川市—

65人は、昨年12月、市内太秦公園内の池に生息する巨大肉食魚アリゲーターガの根絶に成功した。11月にテレビ番組「池の水ぜんぶ抜く大作戦」の収録で全滅を期したが根絶に至らず、再チャレンジしたのだ。見守ってきた電通大学職員の早野秀樹さんは、「学生たちはこの経験を周りに広めて、日本古来の自然環境を未来に残していってほしい」と語る。

なお、テレビ番組では1月2日(日)午後5時55分からテレビ東京系で放映。



泥だらけで奮闘する学生

水辺の生物多様性を守るために活動している市民、学生、市職員たちがいる。「寝屋川再生ワークショップ」のメンバー約